普 及 情 報

「国体に向けたノジギク栽培」

2006年９月30日～10月10日に兵庫県で開催される「のじぎく兵庫国体」の開会式会場を、県花ノジギクで飾ろうと三木市志染町の馬勝敏博さんが、ノジギクのポット栽培に取り組んでいる。初めて経験するポット栽培での苦労も含め、その取り組みについて紹介する。

１．国体用ノジギクに向けた試験栽培

国体に向けたノジギク栽培は、2005年から始まった。11月上旬に自然開花するノジギクを、９月下旬開花させる栽培方法を確立するため、試験栽培を行った。

農業技術センター園芸部で確立したノジギク栽培マニュアルをもとに、５月中旬に挿し芽を行い、６月上旬に鉢上げ、活着後摘心、わい化処理を行い、７月７日からシェードを開始した。９時間の日長処理のため、午後５時から翌日午前８時まで、シェードした。またシェード内の温度上昇を防ぐため、夜間にはシェードを開放した。

夏場の温室の温度上昇は、想像を超えており、最も暑い日には日中49℃まで上昇した。

灌水作業も、ポットの乾き具合を見ながら１ポットごとに手灌水を行ったため大変な作業であった。

また、昨夏の乾燥高温の気候で、マメハモグリバエやハダニの大発生に悩まされた。

試験栽培では、ピンチの位置高さ、わい化剤の効かせ方と共に、当初目標にしていた開花時期の10日遅れなど課題が明らかになった。

２．「のじぎく兵庫国体」本番に向けた支援内容

９月25日開花は、国体開会式会場を飾るためどうしても達成しなければならない目標である。そのため本年は、シェード開始時期を早め、温室内の温度を下げ、被覆資材や頭上灌水等による気温低下で生育促進をすすめていくよう支援していく。

また、栽培期間を通じて被害のある、マメハモグリバエの徹底防除対策のため、薬剤の粒剤施用やほ場の全面マルチすることを検討する。

３．成功に向けた支援体制

いよいよ本番にむけて、農産園芸課、園芸部、部長（普及担当）、花き協会及び普及センター（三木、北淡路）等が連携のもと、関係機関一丸となって無事に会場をノジギクで飾れるように、全面的な技術支援を展開中である。

山盛典子（三木農業改良普及センター）

図１　日覆い（気温低下をねらった）状況

図２　ノジギク開花状況